

Q&A

大腸内視鏡検査にて偶然発見された盲腸粘膜下腫瘍の1例

【問 題】

症例：60歳代，男性。

主訴：特になし。

既往歴：虫垂炎（2年前に虫垂切除施行歴あり）。

家族歴：父・弟：前立腺癌。

現病歴：前立腺肥大症にて泌尿器科通院中。経過観察のMRIにて前立腺右葉に異常信号を認め、生検にて前立腺癌と診断された（病理：prostate cancer, adenocarcinoma, 臨床病期：cT1cN0M0）。小線源療法導入前の大腸スクリーニング目的に消化器内科紹介となった。

生活歴：飲酒歴：機会飲酒，喫煙歴なし，アレルギー歴なし。

血液検査所見：WBC 5860/ μ l (Neut 56.6%, Lymph 35.8%, Mono 6.1%, Eosino 1.0%, Baso 0.5%), Hb 15.3g/dl, Plt 22.4万/ μ l, LDH 167U/ml, CRP 0.09mg/dl, CEA 1.5ng/ml, CA19-9 12.8U/ml, PSA 3.39ng/ml。

画像所見：大腸内視鏡検査では，虫垂開口部に一致して15mm大の粘膜下腫瘍様の隆起性病変を認めた。表面は正常粘膜で覆われ潰瘍形成は認めなかった。隆起部からの生検では，軽度の炎症細胞浸潤をともなう正常大腸粘膜が採取されたのみであった（Figure 1）。腹部造影CTでは，同部位

に漸増性の造影効果を示す14mm大の腫瘍を認めた。リンパ節腫大や腹水貯留は認めなかった（Figure 2）。

1. 鑑別診断は？
2. 治療方針は？

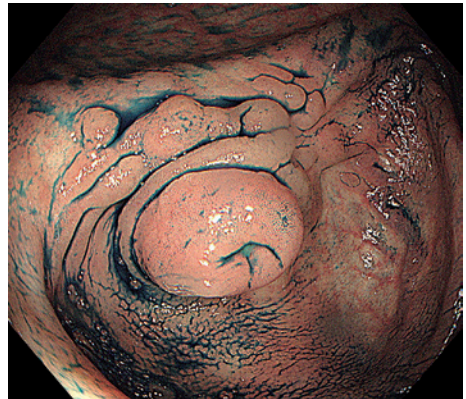


Figure 1. 大腸内視鏡検査所見。

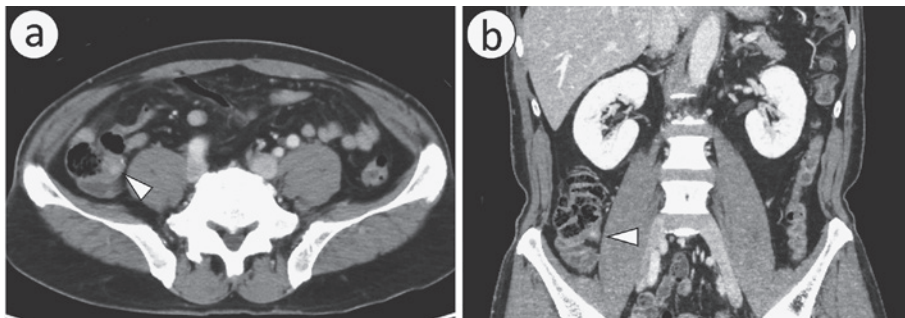


Figure 2. 腹部造影CT所見：(a) 横断面。(b) 冠状面。矢頭は盲腸の粘膜下腫瘍を示す。